

## News release

### スイス・リー・インスティテュートの最新シグマ調査 - 2016年の世界の収入保険料は増加、全体的な成長見通しは引き続き良好

- 2016年の世界の元受保険料の伸びは3.1%。2015年の4.3%からは縮小
- 先進国市場の業績低迷により、2016年の生命保険料の伸びは2.5%、損害保険料は3.7%に縮小
- 生保・損保の両セクターの収益性は低金利と競争激化を受けて低下
- 中国では生保と損保の収入保険料が非常に強く伸びたものの、他の多くの新興国市場は減速モード
- 世界の収入保険料の伸びは引き続き新興国市場にけん引され、先進国での景気の回復が損保セクターを押し上げる
- 特集: 保険業界でもネット販売が伸びているが、代理店やブローカーも引き続き重要な役割を担う

チューリッヒ、2017年7月5日 - 2016年の世界の元受保険料は実質ベースで3.1%の伸びとなり<sup>1</sup>、世界経済の成長が鈍化するなか、極めて好調な結果となったことが、スイス・リー・インスティテュートが発行した最新のシグマ調査誌で明らかになりました。世界の収入保険料の動向が2015年と比較して低調に推移した主な原因は先進国経済でしたが、中国を除く多くの新興国市場でも減速が見られました。世界の生命元受保険料の伸びは、先進国市場の保険料収入の減少を受けて2015年の4.4%から2016年には2.5%に減速しましたが、新興国地域の生命元受保険料は総じて長期平均の2倍以上の伸びとなりました。損保の分野では、新興諸国での比較的堅調な拡大と再び特に好調だった中国の業績を反映し、2016年の世界の収入保険料が3.7%増加しました。新興国市場は今後数年にかけて生命元受保険料の改善が加速する公算が大きく、特に中国とインドが成長の主な原動力となる見通しです。損保の元受保険料は引き続き緩やかに伸びる見込みで、先進国市場における景気の活性化がその勢いを支えていくと思われます。

---

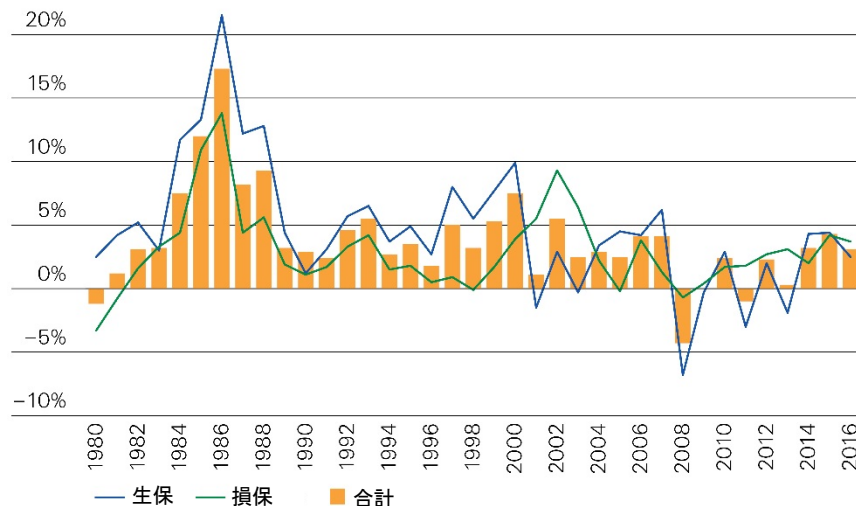
<sup>1</sup> 成長率はすべて、別段の注記がない限りは現地のインフレ調整済みの実質値です。

2016年の総元受保険料は実質ベースで3.1%の伸びとなり、2015年の4.3%より伸びが減少しました。2016年の伸びは、保険需要の主要な喚起要因である世界経済の成長がわずか2.5%に留まったなかで達成されたものです。米ドル名目ベースで見た場合、世界の元受保険料は2.9%増加しました。名目の伸び率が実質ベースよりも低かった理由は為替相場の下落で、特に英国と一部の新興国で顕著でした。

### 中国の伸びは生保と損保の両分野でエンジン全開

2016年の世界の生命保険の元受保険料総額は2兆6170億米ドルにのぼり、実質ベースで2.5%の伸びとなりました。これは2015年の4.4%の伸びと比べると鈍いものの、10年平均である1.1%成長を上回っています。新興国市場は、主に中国における急速な伸びにけん引され、引き続き世界的な成長の主要源泉となっており、元受保険料は17%増と、10年平均の8.4%の倍以上となっています。スイス・リーのチーフ・エコノミストであるカート・カールは次のように述べています。「中国における生保セクターは非常に急速に伸びています。伝統的な生保商品の売上は2016年も非常に好調で、これは金利のさらなる自由化と、プロテクション商品の成長を促す政府の取り組みの恩恵を受けたものです。」

図表1: 世界の実質元受保険料の伸び、1980年～2016年(グラフをクリックして「シグマ・エクスプローラー」に移動)



出所: スイス・リー・インスティテュート

中国を除くと、新興国市場全体の生命保険料の伸びは著しく低下するものの、それでもインド、インドネシア、ベトナムの伸びを原動力に5.7%の高い伸びとなりました。先進国市場では状況が異なり、保険料は2016年に0.5%減少し、10年に及ぶ保険料の伸びの停滞期間が延長されました。

損保では、2016年の世界の保険料は3.7%の増加となり、2015年の4.2%増を下回るものの、10年平均の2.0%は上回りました。ここでも新興国市場における保険料の伸びは9.6%と堅調で、10年平均の8.3%も上回

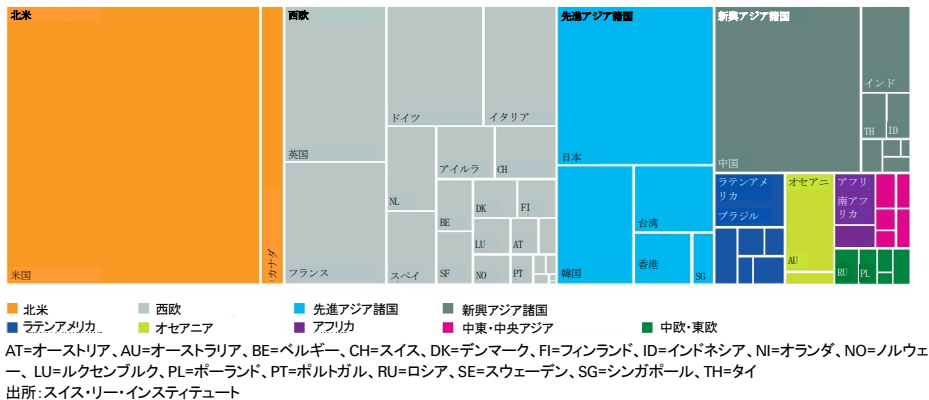
りました。しかし新興国市場の業績は、損害保険料が20%増加した中国に大きく偏っています。

医療保険の需要急騰と、減速するも継続している自動車保険需要が、中国の損害保険料を下支えしました。中国を除いた場合、新興国市場全体の保険料はわずか1.7%の伸びに留まりました。先進国市場の損害保険料の伸びは2016年に2.3%まで減速しましたが(前年度は3.3%)、それでも10年平均の1.0%は十分に上回りました。伸びはすべての主要先進地域(オセアニアを除く)で低迷しましたが、経済成長の鈍化と金利の軟化がその原因でした。

### 今や世界第3位の保険市場となっている中国

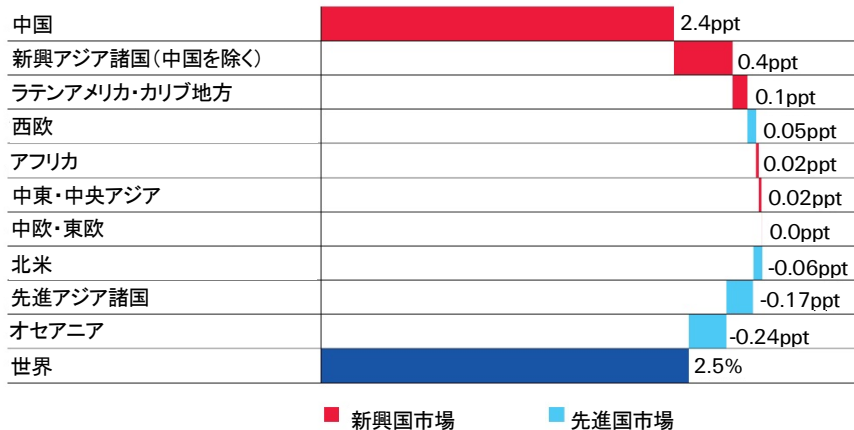
2000年、収入保険料総額で見ると中国は世界第16位の市場でした。それが2016年までには総収入保険料4660億米ドルと世界第3位の市場となり、第2位の市場である日本(4710億米ドル)にほとんど迫っています。しかし、米国(1.35兆米ドル)との比較ではまだ大きな開きがあります。以下のインタラクティブ・インフォグラフィックは、中国が2015年に世界第3位の地位に至るまでの発展を追ったものです。

図表2: 地域別収入保険料総額、2016年(グラフをクリックして「シグマ・エクスプローラー」に移動)



生保分野において、中国は2016年の収入保険料の伸びの最も大きな源泉となりました。昨年2.5%となったこの分野の保険料の世界的な伸びのうち、中国の貢献は2.4パーセントポイント(ppt)にのびました。その他市場の貢献は、すべてを合わせても残りの0.1pptに過ぎなかったこととなります(図表3参照)。損保分野では、地域や国別の貢献度はより均衡が取れていました。例えば、中国の収入保険料の伸びは2016年に大幅に拡大したものの、先進国市場が引き続き世界市場において大きな役割を果たしました。北米と西欧を合わせると、世界セクターの3.7%の伸びに対する貢献は1.8pptあり、これに対して中国は1.7pptでした。

図表 3: 生命保険料の実質的伸びに対する地域別の貢献、2016 年



出所: スイス・リー・インスティテュート

### 低金利が引き続き利益圧迫要因に

低金利が続くなかで保険業界の収益性は引き続き圧力を受けており、株主資本利益率(ROE)は両セクターにおいて2016年に低下しました。生保は、多くの市場において保険料の伸びが緩やかだったことも収益の足かせとなり、一方で損保セクターには引受実績の減少による影響もありました。米国の損保セクターは、巨大災害損失の増加および前年の支払準備金の取り崩し減少を原因として、4年ぶりに保険引受損失を計上しました。ただし、収益に対する圧迫にもかかわらず、生保と損保の両セクターとも自己資本は引き続き充実しています。

### 保険料の伸びは改善の公算が大きいものの、収益性圧迫は継続

世界の生命保険料の伸びは今後数年間にわたり改善すると見られており、その主な原動力は中国とインドを中心とした新興国市場となります。先進国市場も成長の公算が大きいものの、緩やかな伸びに留まります。北米は西欧を上回る見通しである一方、伸びが最も大きい地域は先進アジア諸国となる可能性が高いです。世界的な損保の伸びは鈍化が続くと見られていますが、先進経済諸国における景気の活性化が主な後押しとなります。収入保険料の伸びは北米と先進アジア諸国で改善が期待されていますが、西欧とオセアニアでは横ばいの状態になると思われます。新興国市場は強い成長が予想されますが、ここ最近と比べるとペースが落ちる見込みです。中国では順調な伸びとなりそうで、中国には及ばずともインドも順調に伸びる公算が大きいです。

レガシーとなっている保証の組み込まれた貯蓄型保険事業の管理は、今後数年にわたり生保各社の収益性にとって大きな課題となります。歴史的な低金利が続く、新契約につながる魅力的な貯蓄型商品を提供する能力が抑圧されると見られています。生保各社はビジネスモデルの新たな方向づけを継続し、従来の貯蓄型から生活保障商品へ重点をシフトさせていくと思われるが、これらの措置が実際の効果を発揮するまでにはもうしばらくか

かりそうです。損保各社の収益力は、軟調が続く市況や準備金取崩しの減少の影響が引受実績に及ぶなか、投資のリターンがいまだに小さいことを考えると引き続き圧力を受けることが予想されます。

#### **ネット販売が伸び続けるも、仲介業者が消えることはない**

今回のシグマ調査には、保険業界におけるネット販売の発展についての特集が組まれています。近年、一部の市場にはデジタルチャネルを通じたダイレクト販売が普及してきています。同時に、従来型の仲介業者を介した保険事業も世界的に支配的なシェアを持ち続けています。保険販売のデジタル化は続いていくものの、変化のペースは市場によってまちまちになると思われれます。最終的には、情報収集から購入完了、アフターサービスに至るまで、販売プロセスの全体にわたりデジタルチャネルが使われるようになると考えられます。しかし、すべての保険取引がオンラインに移行するわけではなく、仲介業者も引き続き重要な役割を果たしていくものと思われれます。

#### **スイス・リーについて**

スイス・リー・グループは、再保険、保険、その他保険ベースのリスク移転で世界をリードする大手再保険会社です。直接、またはブローカーを通して、世界中の保険会社、中規模企業から大企業、公共部門のお客様にサービスを提供しています。あらゆる保険種目の標準商品からテイラーメイドの商品までを携え、スイス・リーは、その資本基盤と、事業や発展に付随するリスクを負うことを可能にするための専門知識と革新力を展開しています。1863年にスイスのチューリッヒで創業されたスイス・リーは、世界約70カ所で事業拠点を展開しています。スタンダード&プアーズから「AA-」、ムーディーズから「Aa3」、A.M. Bestから「A+」の格付けを取得しています。スイス・リー・グループの持株会社である Swiss Re Ltd の登録株式は、スイス証券取引所のメインスタンダードに準拠して上場しており、ティッカーシンボル SREN で取引されています。スイス・リー・グループに関する詳細は、ウェブサイト ([www.swissre.com](http://www.swissre.com)) をご覧いただくか、または Twitter で ([@SwissRe](https://twitter.com/SwissRe)) をフォローしていただきますようお願い致します。